



公民館運営審議会委員 新藤 浩伸
(学職経験者)

公民館運営審議会では、昨年11月に公民館長から諮問をいただき、公民館事業でDX（デジタルトランスフォーメーション）をどう活用するかという答申を審議しています。9月の答申提出をめざし、この原稿を書いているいま（8月）に最終案をまとめているところです。

これがなかなかの難題です。そもそもDXって何？交流や学びあいを大切にする公民館にデジタル技術を導入したら大切な部分がなくなってしまうのでは？そもそも公民館にDXはなじむの？疑問がいくらかでも出てきます。もちろん、活用できるものはどんどん活用して、市内に1館しかない公民館を外に発信していくことで、多くの市民の学びを支えることはできるでしょう。すでに様々な技術の上に私たちの暮らしは支えられていますし、昭島市公民館も今や少々レトロになりましたが、建設当時は最新鋭のテクノロジー満載の空間だったはず。しかし昨今の技術革新はあまりに早く、生活実感が追いつきません。デジタルを使いこなす前に使われることへの不安のほう大きい、といった印象を、デジタルが苦手な私自身も持っています。

この課題はまさに現代的で、先進自治体も先進事例もありません。今回の答申も、できることから少しずつ、という地道な提案になりそうです。しかし、公民館のこれまでの蓄積を大切に、公民館とはどのような場なのか、何を発信していくかをしっかり考えること。DXをめぐって「誰一人取り残さない」というキャッチフレーズを良く聞きますが、そこで逆に置いてけぼりになる人をつくらないう、一人ひとりを大切にする公民館に、という願いを込めて、答申をお届けする予定です。

人生は一度きり、機械に振り回されている暇はありません。公民館で、昨今のSNSやAIなどのデジタル技術の可能性や課題、本質についてしっかりと学びながら、私たちの暮らしを穏やかで豊かなものにしていくことができたらと思います。

公民館運営審議会活動報告

公民館運営審議会は公民館が行う各種事業を調査・審議することを目的に、毎月1回開催しています。7月と8月の主な内容をお知らせします。

◇7月13日（月）

恒例のひとことタイムで各自の日頃の思いや出来事などを発表し、お互いの理解を深めた後、都公連の事業や公民館主催事業の報告を行いました。

次に答申の作成に向けて、会長から提案された素案の読み合わせと、委員同士で内容の意見交換をした後、全体で発表しました。デジタル化における社会教育のあり方の事例が少ない中、DXとどうとり組むかという難しいテーマに、各自のデジタル体験や考えも汲みながら、

デジタル化は大切、しかし公民館のアナログ的な良い所も失わないようにする提案を行う方向で、最終案をまとめることになりました。

◇8月10日（月）

ひとことタイムや都公連委員部会研修会のご案内、主催事業の報告などを行い、答申の最終案をまとめる作業を行いました。若い世代の意見として、卒論研究や社会教育実習をしている学生2名も加わり、意見交換を行いました。9月には会長より答申の提出を行います。

※公民館運営審議会は、第2月曜日の午後6時30分から、月1回の定例会を行っています。休館中の会場はアキシマエンス校舎棟です。傍聴も可能です。

公民館利用者連絡会 けいじばん

12月6日（日）「ただいま、おかえり」イベントに集合！！

1年2か月の空調工事が終わり、また皆さんと公民館で顔を合わせることができます。

「ただいま、おかえり」イベント（プレ公民館まつり）では、12時からの『ロビーコンサート』、1階ギャラリーでの作品展示や「カルガモひろば」音楽室（2階）、学習会議室や集会室（3階）で、ギターなどの楽器演奏を体験できるブースを作り、サークルとの交流を予定しています。大人も子どももみんな集まり、つながりましょう！次の公民館まつりの企画委員や参加団体も募集していきます。ぜひイベントにご参加ください。

